

## 政策評価有識者会議(平成30年3月16日)における指摘事項への対応(整理票)

### ○福祉・年金WG

| 指摘事項   | 対応状況(平成30年7月)  |
|--|--|
| <b>X I - 1 - 3 総合的な認知症施策を推進すること</b>  |  |
| <p>●【山田委員】認知症の人が希望に沿った環境で過ごしているのか、もう少しダイレクトな情報の指標を設定出来ないか。在宅の人数、病院に居る人の人数を把握するなど出来るのではないか。<br/>                     ー(議事録)ーそのときの容態に最もふさわしい場所で医療・介護等が提供されるということが課題になっていて、それに対応する目標は認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供になるのではないかと。確かに、2ページの達成目標2については、御説明のとおり、こうしたことが行われていけば達成されると思います。もう少しダイレクトな指標が必要ではないかというのがコメントです。具体的には、認知症の方が一体どこにいらっしゃるのか、精神病棟に入っているのか、それとも在宅でやっているのか、そういった情報がないと、目標2がどのように達成できているかどうかは、国民からはなかなか見えてこないと思いますので、是非そちらの指標を入れていただければと思います。</p> | <p>●検討中<br/>                     ・認知症の方がどこで暮らしているのかを直近で整理しているものがなく、また、認知症の方がそれぞれの希望に添った環境で過ごしているのかを把握する方法も検討が必要であり、現時点では、目標値を設定することは困難と考えている。<br/>                     ・今後、どのような目標が設定できるか、どのような把握方法があるかなど、検討が必要と考えている。</p>   |
| <p>●【平野委員】認知症の人にやさしい地域づくり、ということで、地域作りにつながっているのかという観点からの指標を設定出来ないか<br/>                     ー(議事録)ー大きな基本目標は、今、地域づくり、社会づくりという用語が出ています。(略)。質問ですが、できるだけ地域づくりが明確になっていくような指標にどのように直していくかは、是非方向性としては考えていただければと思います。</p>   | <p>●検討中<br/>                     ・認知症高齢者にとって優しい地域になっているのかについて、老人保健健康増進等事業などを活用しながら評価指標の検討を行っているが、現時点では、指標化するまでには至っていない。<br/>                     ・海外の指標等も参考にしながら、評価方法等について引き続き研究を行っていく予定。</p>  |
| <p>●【平野委員】認知症サポーターの活躍の場がない、ということを知った。「活動率」のような指標を設定することは出来ないか。<br/>                     ー(議事録)ー認知症サポーターというのはその地域づくりをやる1つの主体で、この人数(目標値)は適切かなと思いますが、今年ちょうど介護保険事業計画の見直しの時期で、私も幾つかの市町村の計画課題を調査したところ、研修を受けてサポーターにはなるのだけれども、活動の場がないというのが事業計画上の最も重要な政策課題だと回答してくれたのです。そういう意味では、この人数の実際の活動率というか、そこまで少し踏み込むと、地域づくりにより近づいていくのではないかなと思うのです。(略)。ですので、最初に申し上げたいいろいろな意味での社会づくりや地域づくりをやるときの、その人たちが活動する内容をどういう形で把握するか、なかなか難しいですが、そういうところに踏み込んでいただければというのが1点です。</p>      | <p>●検討中<br/>                     ・認知症サポーターについては、あくまでもできる範囲で手助けを行うという活動の任意性のあるものとして養成を進めており、こういった活動の任意性を大事にしたいとの声がある。そのため、現時点では認知症サポーターに何らかの活動を求める、活動率を設定することは困難と考えている。<br/>                     ・一方で、見守りや認知症カフェ等、様々な場面で活動していただいている事例の収集等を通じて、今後、具体的な地域の活動につながる方法などを検討していく予定。</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>●【岩崎委員】研修に様々な団体が関わっていると思われるので、主催者側の数、などで「地域作り」につながったかを測ることは出来ないか<br/>       ー（議事録）ー認知症サポーターの数は出ているのですが、サポーターのキャラバンメイト、養成研修を主催する側の立場の方たちの数も公表されていますね。地域包括ケアシステム等いろいろな構想の中で、非常に主体的に研修に関わろうと考えてくださる方たちの数も非常に目安になると思うので、それは入れないのでしょうか。</p> | <p>●対応済み<br/>       ※認知症サポーターの目標値については、キャラバン・メイトと認知症サポーターの数を合わせたものとして記載しています。</p> |
|---|---|

**XⅢ－1－1 国立感染症研究所など国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保すること**

|   |              |
|---|--------------|
| <p>●【山田委員】「施策実現のための背景・課題」の欄に「社会保障給付費」とあるが「社会保障費用統計」の誤りではないか。<br/>       ー（議事録）ー施策実現のための背景・課題の3で、「国の社会保障制度をはじめ」という所の中ほどに「社会保障給付費の推移」と書いてあるのですが、これは厳密に言うと、平成24年から基幹統計の指定を受けて社会保障費用統計になっております。古い表現が残っておりますので、非常に細かいことで恐縮ですが、修正いただければと思います。</p> | <p>●対応済み</p> |
|---|--------------|

**○全W共通**

| 指摘事項   | 対応状況(平成30年7月)   |
|--|---|
| <p>●【玄田委員】「背景」をきちんと書いて欲しい。課題しか書いていないことが多い。<br/>       ー（議事録）ーいただいているこの事前分析表のうち、各項目について背景と課題という欄がございます。ただ、労働・子育てワーキンググループに限らず書いてある内容は課題だけなのです。多分、この辺りは全部簡潔に課題を書くようにという指示の下、適切に書かれていて、その面では課題は非常によく分かりました。ただ、背景はほとんど書かれていないような気がいたします。ですので、背景が何かということはどういうように認識されているかが分からないと、目標の立て方に対する説得性がない。<br/>       今後の課題として考えていただきたいのですが、ここは飽くまで実現のための課題を書いていただく欄にして、一方、例えばそれこそ概要の部分についてはほかのワーキンググループを含めてかなりスペースがあるわけです。もしかしたら、これとは別に背景の部分というのは別に書いていただくようなことをしないと、背景がここには全く書かれていないということは、全般を通じて申し上げたいと思っております。</p> | <p>有識者会議に諮った事前分析表の「背景」記載について、あらためて確認し、必要な追記をしている。</p> |